

7

NGNは信頼性をどう高めている?

ひかり電話の大規模障害はまだ記憶に新しいが、その要因には多数のユーザーを収容できる設計には元々なっていなかったこともある。NTT東西は2010年度までに光ユーザーを2000万に増やす計画だが、そのためにもネットワークの信頼性を根本から高める必要があった。

NGNでは、特定エリアに通信が集中した場合のトラフィックコントロールなど電話網で培われた安定運用のための技術やノウハウが盛り込まれたほか、通信回線や機器の冗長化、キャリアグレード機器の採用などにより信頼性を高めている。

9

KDDIとソフトバンクのNGN計画は?

「ユーザーには直接関係のないインフラの話」という意識があるのか、NTTほど積極的にはアピールしていないが、KDDIとソフトバンクもNGNへの移行を進めている。KDDIのNGNにあたるのは「ウルトラ3G構想」。そのコンセプトは固定・移動・放送の融合・連携を意味するFMBCで、今年度からFMBCの具体的サービスを提供していく考えだ。

FMC重視はソフトバンクも同じ。グループ3社のネットワークのオールIP化とIMSアーキテクチャによる統合を進めており、2011年までに完了する計画だ。

8

NTTがNGNをオープンにした目的は?

インターネットがここまで発展したのは、誰でも自由にサービスを開発できたからだ。ゆえに魅力的なサービスが数多く登場した。

公正競争の確保という側面もあるが、NTT東西がNGNでUNI、NNI、SNIという3つのインターフェースをオープンにしているのは、このインターネットのモデルに倣ってのことだ。インターネットよりはさすがに自由度は落ちるが、ASP/SaaS事業者やIPTV事業者、コンテンツプロバイダーなど多種多様なプレーヤーが、QoSや回線認証といったNGNならではの機能を使ったサービスを創造で

10

インターネットとNGNは対立するのか?

NGNとインターネットの関係は図表1-4の通りだ。インターネットはNGN上に乗るサービスの1つという言い方もでき、よく誤解されるようにNGNとインターネットは対立関係にあるわけではない。NTTも強調しているが、両者は共存共栄していくものだ。

ただ、NGNが発展していくためには、インターネットではできなかったサービス、あるいはインターネットにもあるがさらに付加価値を高めたサービスを提供する必要が

きるようになっていく。NTTグループだけでできることは限られる。いかに多くのプレーヤーを巻き込めるかがNGN成功のカギとなる。

新サービスの創造という観点で最も重要なインターフェースは、外部の各種アプリケーションサーバーとNGNをつなぐSNIだ。ただ、SNIには問題点も指摘されている。それはSIPに関するスキルが必要な点だ。通信業界以外には、SIPが分かる開発者がほとんどいない。

そこでSDPの登場が期待されている。これはWebサービスやJavaなどIT/Web系開発者に馴染みのある言語で、QoSや呼制御などの網側の機能を利用できるサービス開発・実行基盤である。

あるのも事実。その意味では当然、競合も一部領域では起こり得るだろう。というより、インターネットとのサービス競争がまったく起こらないようではNGNの未来は暗い。

インターネットとの差別化要素となるのは、繰り返しになるがQoSやセキュリティ、信頼性など閉域網ならではのメリットである。

図表1-4 NGNとインターネットの関係

